

ほりかわ たかのぶ
堀川 貴庸 議員

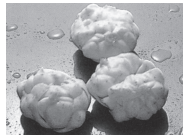
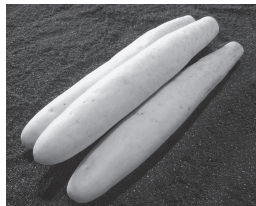
「食う・寝る・遊ぶ」まちづくり

今年も早いもので年末年始の時期となった。この時期は多くの方々が地元や管内に戻ってくる。また、冬のスポーツのシーズン到来でもあり、人々の往来も増加が期待される。

食う＝飲食・買い物、寝る＝宿泊・移住、遊ぶ＝体験・感動などをキーワードに道内自治体がそれぞれまちづくりに大いに取り組んでおり、もちろんわが町でも、課題はあるが、住みよいまちづくりに取り組んでいる。

自治体も家計も企業も所得収入は厳しいが、食う寝る遊ぶそして働くとなるような一層賑わいあるまちづくりに向けて、全町での取り組む姿勢とその取り組みにつき、所見を伺う。

- ①食う（＝飲食・買い物）の取り組みと課題
・特産品・ブランド化・情報発信など
- ②寝る（＝宿泊・移住）の取り組みと課題
・道東道・週末セカンドハウス・外国人など
- ③遊ぶ（＝体験・感動）の取り組みと課題
・ブログの利活用・お手軽・イベントなど
- ④地域のまちづくり団体との協働について



左上：和稔じょ
右上：インカのめざめ
左：ゆり根

町長

①長芋、百合根、レタスなどは、高い市場評価を得て、全国各地にブランドとして販売されている。ブランド化についてはプロモーションの妨げにならないよう、観光物産協会と連携してPR活動を進めたい。

また、飲食に関しては、忠類地区の飲食店のグループが、地域にちなんだ新メニューの研究に取り組んでいるので、ご当地メニューの発展に期待したい。

②道東道を利用する観光客について、パークゴルフ等の体験と宿泊を組み合わせ、2泊分の周遊コース設定が可能と思われるので、コースの設定とあわせ、宿泊施設間相互の連携を、要請したい。

週末セカンドハウスは、大都市から近距離にあり、静寂で緑豊かな避暑地的な性格を有する土地柄が好まれていることから、本町では想定しづらいとらえている。

外国人観光客は、一部のホテルで団体ツアー客を受け入れているが、今後、個人単位での旅行者が増えた場合には、旅行者に満足してもらえるような対応をしたい。

③町には、有名な観光スポットや名所旧跡はないが、パークゴルフ、搾乳、チーズ製造、そば打ち、果

物狩りを初め、陶芸や農畜産物等の加工ができる施設もあり、こういった資源を組み合わせた体験型の観光ルートを売り込むことが重要であると考えている。

イベントは、今までの経過や経緯を重んじながら進めていくことが、大事だと思っている。

④観光振興は、民間活力への依存度が高く、企業間の協力・連携も必要となるので、観光物産協会には、これまで以上に主導的な役割を期待している。

平成23年度から2年間、北海道より職員の派遣を予定している。その職員を中心に、産業資源、観光資源を活用した体験型・滞在型観光の推進に向けた具体的な方策を企画し、旅行会社やホテルに提案していきたい。



忠類 どんとこいむら祭り